

DPSWS 原稿の準備方法 (2022年6月15日版)

情報 太郎^{1,a)} 処理 花子¹ 学会 次郎^{1,†1,b)}

概要: 本稿は、マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS) に投稿する原稿を執筆する際のフォーマット及び注意点をまとめたものである。本稿も投稿フォーマットに従って執筆されているため、著者は本稿のソースファイルを雛形にして原稿を執筆することが可能である。DPSWS で用いるスタイルファイルは、情報処理学会論文誌のスタイルファイル (<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html> からアクセス可能) を継承しているため、使用すべき L^AT_EX コマンドや執筆形式の詳細については、そちらをご参照いただきたい。

1. 投稿フォーマットについて

マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS) に投稿する論文を L^AT_EX を利用して作成する場合には、`dpsws.cls` ファイルを用いることとする。和文論文の場合には、`tex` ソースの冒頭に次のように記述すること。

```
\documentclass[submit,techreq,noauthor]{dpsws}
```

英文論文の場合には、次のように記述すること。

```
\documentclass[techreq,english]{dpsws}
```

クラスファイル `dpsws.cls` は情報処理学会標準の `ipsj.cls` を基にして、ヘッダ、フッタを出力しないようにカスタマイズしたものであり (和文論文の場合には英語タイトル、英文著者名、及び英文アブストラクトも出力しないようにしてある)、情報処理学会の許諾の下に配布している。その他の本論文の体裁については「情報処理学会論文誌 (IPSJ Journal) 原稿執筆案内」[1] に基づいて記述することとする。但し、`biography` セクションは記述しないものとする。

これらスタイルファイルについて、情報処理学会に問い合わせることはしないようお願いしたい。DPSWS としてもスタイルファイルに対するサポートは行わないが、不備や不明な点等があり問い合わせが必要である場合には、

DPSWS の問い合わせ窓口にご連絡いただきたい。

2. 文字コードについて

DPSWS 向けに用意された `dpsws.cls` や `dpsws.sty` などのファイルは、UTF-8 の文字コードで作成している。他の環境で執筆する場合は、適宜文字コードや改行コードを変換してから利用されたい。

参考文献

- [1] 情報処理学会論文誌 (IPSJ Journal) 原稿執筆案内 (入手先 (<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun-j-prms.html>)) (2022.06.15).

¹ 情報処理学会
IPSJ, Chiyoda, Tokyo 101-0062, Japan

^{†1} 現在、情報処理大学
Presently with Johoshori University

^{a)} joho.taro@ipsj.or.jp

^{b)} gakkai.jiro@ipsj.or.jp